

■松寿院 大名の妻。夫の死で事実上の種子島島主となり、島民の生活向上に尽くした。日の丸を創案したとも。

しょうじゅいん

昌平饗始・・・1797＝薩摩藩主島津斉宣の娘に生まれ、島津斉彬の叔母に当る。

幼くして、種子島島主久照の長子久道夫人になることが約束され、しかるべき教育を受けて育ち、

げんろ報復・・・1806＝9歳：

ゴロブニ拿捕 1811＝14歳：_久道と結婚し、

黒住教・・・1814＝17歳：_久道が家督を相続して、種子島島主夫人となる。

・・・1815＝18歳：

水野忠成老中 1818＝21歳：

久道との間に、1男4女をもうけるが、

世継たるべき男子を失い、女子2人にも早死される不幸に見舞われる。

シボム鳴滝塾 1824＝27歳：

日本外史・・・1827＝30歳：_自らの出自を利用して、厳しく統制されていた砂糖製造の許可を得、

シボム追放・・・1829＝32歳：*夫が死去すると、松寿院と号し、藩命で世継が得られるまでの条件で、種子島の内政・外交に当り、

_砂糖の移出で次第に財政が豊かになって行く。

天保大飢饉始 1833＝36歳：

大塩平八郎乱 1837＝40歳：

天保改革弾圧 1842＝45歳：*自らの異母弟久珍が島主に就くことで、一応の区切りがつくが、

阿部正弘首座 1845＝48歳：

尊徳報徳論・・・1851＝54歳：

ペリー来航・・・1853＝56歳：

開国開港・・・1854＝57歳：*久珍が死去したため、島主に就いた誕生まもない遺児久尚を後見して、再び内政・外交に当り、

松下村塾・・・1856＝59歳：_市来の郷土に依頼して、塩田適地調査を行うとともに、串木野から製塩技師を招き、

蕃書調所・・・1857＝60歳：_農作物被害を減じるべく、大量の人員と私財を投じて、大治水工事を実施に続いて、塩田を開発して製塩。この年には、学校も設立し、「大日本史」を寄贈。

_製塩が行き詰まると、家臣を出水に派遣して外国由来の製塩法を学ばせるとともに、

桜田門外変・・・1860＝63歳：_私財を投じて、塩子や石工を招いて塩田の拡張を図る一方、薩摩藩庁から波戸築港の許可を得、

遣欧使節・・・1861＝64歳：_ついに本格的な塩の生産地となり、

生麦事件・・・1862＝65歳：_宿願の新港も完成して、移出もできるようになる。この間、石材採掘で人骨が出ると、その供養のため、本源寺門下に、如意輪観音の石像を建立。

8月18日政変 1863＝66歳：_筑前の例に倣い、島中の家ごとに3羽の鶏を飼育させ、卵を買取って、他国との交易品にする政策も導入するなど、

薩摩藩士密航 1865＝68歳：*島民の生活向上に尽くし続けて、没した。

「人づくり風土記」(鹿児島)、